

## 在特会の論理(17)

### ——1人で街宣していた動画に引き込まれた Q 氏の場合——

樋口直人（徳島大学総合科学部）

#### 1. 経緯

本稿は、2012年1月29日にQ氏（30代男性）に対して実施した聞き取りを、意味が伝わりやすいように適宜並べ替えて再構成したものである。彼は、もともと住んでいたところから転勤で別の地域に移動してからも、在特会の活動を続けている。また、在特会の運営側には理科系の職業についている者が一定数おり、Q氏もそのうちの1人である<sup>1)</sup>。

Q氏は、他のメンバーと比較して温和で傍観者的な視点が目立つ。そうしたQ氏が、どのようにして排外主義へと取り込まれていくのか、以下ではインターネットの影響が彼の口を通して語られていくこととなるだろう。

#### 2. 政治に対する関心

あまりないです。元々（関心が）あったわけではないですし、在特会に対しての関心を持ち始めたっていうのは、インターネットでたまたま見たっていうのがきっかけです。投票には必ず行ってました。やっぱり、その時点からある程度やっぱり自分の意志っていうのは政治に対しては示す必要があると、誰でもいいという周りの思想自体が——当時よくあったんです。今でもよくあるんですけど、誰でもいいというわけではないはずなんですよ、やっぱり。で、当時からその辺は考えてた。投票に行く前にはある程度、その政治家の地域の者だったり公務員にその辺の情報はある程度仕入れて、誰に投票するかはある程度決めてます。二十歳の時はまだ学生だったので。ただ、その辺はきっちりやっていこうと思ったんですよ。

---

1) 直接的に誰が該当するかはいえないが、このうち何人かは、引用可能な形で自らの職業について言及しているので参照していただきたい（樋口 2012a, b, c, d, e）。

投票する政党は、基本的にはやはり自民党になるかと。ただ、自民党自体もダメなところも結構あって、疑問はしてたんです。疑問は持ちつつも、他に代わる人たちがいなかったというのがあって。逆に、人は別の——いわゆる共産党系の人だったりに入れたり、その時その時で変わるのですが、その人が言っていることが正しければその人に入れて、政党としては自民党に入れて。

(どこに不満があったのか) 自民党の——その時その時で考えが変わってくるとは思うのですが——何ていうんでしょうかね。結局その時はマスコミしか情報が無いもので、そこがメインとなるわけですが、ここがいやっていうところが必ず1つか2つ出てくるわけじゃないですか。まあ、すべての政党そうなんですけど、その割合ですよ。ここは許せるけれども、ここは許せない。そういったものを考えていくと、やはり許せるものを選択していくと、自民党にならざるを得ない。そういう形で選んできたっていうのがありますね。

まだ学生時代の時は、別に保守主義とか民族主義とかそういったものは、まったく感じていませんでした。考えもしていなかったという。どちらかというと、右左あんまり考えてなかったっていうのが正確かと思いますね。まあ、今でもそんなに右の考えでいってるわけでもないと思うんですけど。いろいろなもので取捨選択していくと、自民党しかないかなと。当時は、どちらかというと社会党とか共産党の方が興味があったというのがありますけど。やっぱり生活していく上で、彼らの方がいいこと言ったりするものですから。

(投票先や政治意識の変化) 投票先は、後で変わったというか、たちあがれ日本が出てきてからそこ——今まで自民党一辺倒だったのが。前々回、新風の方から人が出たんで、その時は瀬戸さんが出られましたんですけど、その時は瀬戸さんに投票しましたが、それまでは自民党。たちあがれ日本ができてからは、たちあがれ日本にとか。自民党に対する不信というのはずっと持ち続けてましたんで、そこで天秤かけて「どうだろう」って。他がなければ自民党に入れるしかないと思いますけど。自民党に対してもうちょっとものを言える状態に、どうにかして仕組みを作っていくかといけない

のかな。でない、また同じことの繰り返し。やはり自民党は一党独裁をやってきたので、一党独裁になると結局腐っていくじゃないですか。ならどうにかして浄化する仕組みを作らないといけないかなと思いますね。

私の兄がですね、労働組合の役員とかやってます。逆の——反対側の人達の方を見てたって感じです。まったく（社会運動を）意識してなかったわけではないです。彼らの言うことも理解できますし——おかしなこと言っても。やっぱり向こうの人たちの言うところは、感情論が一番最初に来ると思うんですよ、屈辱云々の前に、一番最初に何かあると「かわいそう」とか、人助けの意味合いが最初に来ると思うんですけれども。

でも、そこだけ言ってしまうと社会として成り立たない。何でもかんでも救えるっていう、そんな社会ってないわけです。やはり誰かが切り捨てられる、残酷なようですけどそういう社会ですよ。彼らの言うことも理解できるけれども——気持ちとして理解できるけれども——やはり違うだろうというところもあるわけです。理想は理想としてあっていいんですが、現実はこちらと理想と違うでしょ、という。なので完全に毛嫌いしているわけではないですし、「ちょっとおかしいよね」という。理解できるところは理解できるし、正しいと思っていることは正しいと思うし。

兄貴が左翼——やってますんで、ある程度の口論する時はあります。ただ、ここは交わらないというところは必ずあるんですね。「ああ、この人とは交わらないな」というところが、そこは話しても無駄なのでしゃべらないです。ただ、話して理解できるところは理解できます。お互い歩み寄れるところは歩み寄って。

### 3. 外国人との接点

住んでるところではないですね。あ、いました。いわゆるジャパゆきさんと言われる外国人の女性の結婚された、その人たちの子孫と、一応交流というか……おりました。特に別に何かあるわけではなくて、という。最近ですと、ロシアの船が結構来てますけど。地元の方ではロシア人との混血児が結構出てます。

外国人嫌いというものでもなかったですね、当時は。嫌がらせされてる間

題もないですし、外国人に何されたということもないです。特に何かされたわけでもないですし。別にその辺で暮らしてくんだから、別になんともないと思ってましたけど。特に外国人が悪さをしているという情報もあまり入ってきてないですし。特に関心はなかったというのが一番だと思いますね。

若干あるのが、地元の方だと浜辺に住んでたんですが、浜辺のとある場所って行っちゃダメっていわれるところなんですよ。北朝鮮人にさらわれるって場所があるんですね。昔から言われてる場所です。子どもの時はそこに絶対入っちゃいけないって。防風林って松の林があるんですけど、そこには入っちゃいけないのは、子ども達も絶対入っちゃダメ。さらわれるからダメって言われる。でもただそれって、まだ言われる前くらいだったですね。拉致がまだ言われる前くらいのころから言われてたんです。なので、地元—あの一辺の付近の人はやはり見かけてるんですよ。北朝鮮人の怪しい船とか、そういうのを見かけてるんです。ただニュースにならないだけで。だからそういうのはあったんですけど。ただ、子どもなんでそんなのは気にも留めないですし、北朝鮮—何言ってるんだろうってわからないですから、理解できてないです。後々考えると、「ああ、そういうことにつながるんだな」という感じはありますけど。

(拉致問題のときは) よく認めたなというのはありましたけど。5人帰したのは奇跡的だなと思いますけど。ガンとして「拉致してない」の一点張りにするのかな、と最初は予想してたんですが、あっさり認めたんで「ああ、すごいな」と。ただ、我々のところでもあったように、そんな5人で拉致が収まるわけがないんですよ。言われてるだけで四百何人かいますけど、多分もっといると思うんですね。その人たちって多分、向こうで暮らしてるんだろうとは思いますが、帰りたいとは思わなくて当然思うと思うんですよ。で、これからどうやってそれをやっていくんだろうっていうのは、やっぱりありますね。自分がその場所に行ったとき—近いですからね、私ももし子どもの時そこで遊んでたとして、さらわれた場合、可能性としてはあるわけですよ。やっぱり身近なところにそういうのがあると、「ちょっとな」と思います。

(従軍慰安婦については) 関心は持ってましたけども、情報を調べていくとずるずる芋づる式に出てくるわけですよ、それに関連する情報が。これは

ちょっとまずいだろう、この人だけがこんなことを言っているかという、他の人も言っている。それを——確かに情報を見ていくと、証拠となるものが一切ない。逆に、人員募集している証拠が出てきた。じゃあ、どっちが本当かと思ったら、当然証拠が出てきた方が正しいだろう。ただ、他の人の証言も、話もありますんで、その話を考慮していくと、やはりこっちはどう見ても嘘。そういう感じで1人だけですが情報を採集して行って、自分1人で——どこまで検証っていうとあれですけど——ネットからの情報なので疑問なところもありますけど、そこで判断して。

#### 4. ネットでの鑑賞

(ネットは) IT 関係に勤めてるんですけど、ネットから何から全部——あの当時 Windows とか出てきたばかりでした。そこから仕事で使うというのがありまして、日頃から情報仕入れる、勉強するというのが常にあったんですね。そうしないといけないというので。古い技術を覚えても、これがもう過去のものになるわけです。新しいものができてきて、すぐ勉強しないと技術者としてやっていけないわけですよ。昔みたいな技術者は1つ覚えればそれだけ勤めれば良いというわけではなくて、IT 技術というのは新しいものの全部取り入れなければならない、それは大変ですけどね。それもあってインターネットもできてからすぐつないで、情報を仕入れるというのはよくやってきました。とりあえず興味を持っていろいろなものを見る、というのは当時からやってたことですね。

きっかけとなるのは、ある方が動画で配信してたんです。動画が Youtube で載ってたんです。何をきっかけにあの動画を見たかという、たまたまとしか、偶然見かけたとしかいいえないです。インターネットサーフィンで、ぼちぼちただ見ていただけです。たまたまクリックした動画がそれだったっていう。過激なことを言ってる人がいる、みたいな感じで載ってたのかどうなのかかわからないんですけど、何かのリンクで飛んでいったんですね。それで見たんです。

その Youtube で載ってるのが一番のきっかけですけども。その人が発した言葉ですね。その発した言葉によって、「この人なに言ってるんだろう」とい

うのが疑問のきっかけですね。疑問から出た、「そんなこと本当にあるの？」というのが最初ですよ。まあ、その疑問からずんずん調べていくきっかけになるわけです。そこからずんずん興味を持って、外国人問題とかそういうものも調べて行って、過去にこういう犯罪があったりとか、今でもこういうものが横行していると。

(最初に動画をみたのは)2006年くらいだったかなと思うんです。そこで、もともと面白い芸をやっている人の——鳥肌突っという芸人がいるんですけども——その芸人が面白かったのが、ちょっとあったのかなというのもあるんですけど。その後ちょっと——その動画というのが瀬戸弘幸さんという方だったんです。その方が動画で1人で話してるんですね。1人でしゃべって、その時は創価学会に対する批判を言ってたんですね。(創価学会に対して特に関心は)ではないです。知り合いにも創価学会員がいますんで、特にどうこうする興味持ってるというわけじゃないですけども、ただ批判してるのがすごかった。その人が、よく1人で言えたなっていう。創価学会を批判できるってすごいなあと。やはり地元でも創価学会に対するそういうこと(批判)は若干タブー視されているというか。みんなしゃべっても知らないふりをするっていうのが、田舎のほうでもあるんですね。なので、カルト宗教というのが地元でも根付いてるとするか、なのであまりその辺の言葉を普通の人も言わない。しかもそれ言った人は何かされるっていうのが、まあありますんで。

その人が1人で、しかもやっていたというのが一番最初の興味を持った動画です。すごい興味が湧いた、この人はすごいな、面白いこと言ってるし、この人殺されるんじゃないかと思って。そんなことを言って大丈夫なのかな、いつ殺されるのかな、と見てたんですね。この人いつ殺されるんだろうと、ちょくちょく、その頃から瀬戸さんのホームページを——いつ止まるんだろうというのもあって。興味を持って読み始めた、面白いこと言ってるなというのが最初に意見ですね。

その後すぐに政治の話を、外国人、朝鮮人の話もされて。そこから調べて、気になって調べたというのがあるんですけどね。裏付けるものもいろいろ出てくるわけですね、いろいろ調べて。そういう悪いことあったんだというの

が。まあ、一番許せないとなるのが、やっぱり税金を支出しているってことなんです。それって国民1人ひとりが関わってくることなんです。なぜ外国人に対してそんなお金が支出されてるんだ、というのが怒る原因になって結びついてくるわけです。その時それを見なかったら、私はここにいないですし。この運動に参加しようとも思っていなかったです。

その後にはですね、「行動する保守」として瀬戸さんと今の在特会の会長の桜井さんと、主権回復を目指す会の西村さんと、日本を護る市民の会の黒田さんと、この4人が——黒田さんは後から入ってきたんで、3人の頃から見出したというのが。そこから最初にやったのが、ニコニコ動画ができてそこから動画を見出したという。ただその当時は、在特会に対してはそれほど興味を持ってなかったですね。どちらかという瀬戸さんの方にメインがあったという、最初から見ましたんで。そこからずっと…。

在特会というか、「行動する保守」としての動画ですね、それを見てたんです。ちょくちょく見てました。やっぱり、街角で街宣する、そういったことは当時やってる人たちっていなかったと思うんですよ。その主義主張を街で街宣して言っているというような感じが、見てて面白かったというのと、弁士の人が言う言葉も結構納得できたんで、それを聞いたかったというのもありますね。(動画以外で話をする)人の主義主張が——会長の意見とか瀬戸さんの意見、行動する保守の人たちの意見は、納得する。「ああ、そうだな」というところもありますし、「違うな」というところも確かに。まったく全部受け入れるというのはしてないですね。

インターネットという媒体がなければ、多分成功しなかったと思いますね。個々で勝手にやってそのまま消滅していたと思います。継続していく、意志を受け継いでいく人もいなければ。何かの大学のサークルとかあって、そこから人を集めていくとか、何かそういう仕組みがない限り人は集まらないですからね。ですからネットがあって、ネットがあることで情報が伝わってと。私も、そこで見なければここにいませんし、活動にも参加しませんし、普通に生きてきたと思いますので。

## 5. 在特会への加入

会員になったのは結構後ですね。(活動に)入るちょっと位前ですかね、7000番近いです。カルデロンの後くらいですかね。ただ、存在自体は知ってたんですけど、別に会員になろうとまでは思ってた。特に入ろうとも思ってたんですね。見て興味を持ってましたけど、手伝おうとは思いましたけど、特に会員になろうとかそういったことはないですね。手伝うのに会員になる必要があるのかな、とかちょっと思ったんです。後から会員になって、確かあの当時は会員じゃないと見れない動画とかあったんですね。それで「ああ、会員登録しよう」と思って。ただそれだけで、会員登録しただけなんです。

在特会に入る(実際に活動する)きっかけとなったのがですね、各地方の支部を作ったんですね。地元の支部ができるということで、とりあえず何か手伝えることがあればと思って、最初の集会に行ったんですね。ただ、人が集まらなくてですね、行ったらすごい目立つわけですね。あの当時、運営の方が3名と一般の人が3人くらいしか集まらなくて。(実際に参加した)根底にあるのは、やはりそういう不正をなるべく——韓国とか北朝鮮がやりたいようにやっていると。このままではいかんだろうと。今までやりたいようにやってきたのをどうにかして食い止めるか、ちょっとでも抵抗になるものとして在特会がやってたというので。しかも地方に支部を置いてやるのは在特会だけだったので、在特会に応援しようということで行ったのがきっかけなんですけど。

ただ、運営に入ろうとは思わなかったですね。手伝えればいいかな、くらいで。地方でも盛り上げていこうかなというくらいで行ったのですが、あまりにも人がいなくてですね、いつの間にか……。その時ですね、しばらくしてから地元のほうでデモを行う、それは全国一斉の民主党の反対デモを行ったんですね。その時の地元でもデモやるんで、ニコニコの生放送のできる機材持ってるから手伝ってくだませんか、ということで手伝いますよという形で行ったんです。

参加して、もっといかつい人たちがいっぱいいるのかな、と思ったんですけどそうでもなくて、普通の人たちだった。ちょっとおかしな人たちもいることはいるんですけど、その人たちは想定外。その人たちが暴走しないよう



に…。(活動は) 街宣とかデモですんで、周知行為ですよ。ただまあ、インターネットで見られる人は見られるので、デモとか街宣とかやっても興味がない人はずっと興味がないままですからね。その辺はちょっと疑問に思ってますけどね。動画で、私のように偶然でもいいんで、それをきっかけにと思ってくれる人が1人でもいたらと思ってるんですけど。

そこからなぜかずっとですね。運営になるつもりはなかったんですが、人がいないというのと機材持っていないので——当時他の運営の方ってまったく機材もってなかったんです。それで、その当時の支部長が仕事の関係で転勤になったんです。そこで人が少なくなるというのもありまして、そこで私が運営にならないかということで、お誘い受けたんで。まあ、それで運営になったと。

運営になってから、特に——皆さん働いてますので、社会人ですので、日中何かをしようとしても——道路使用、街宣やるにしてもデモ行進するにしても、道路使用というのは取らないといけません。そういった日中じゃないとできないと、申請するのに。ただそうすると、なかなかできないというのがあって。なかなか運動としては、そんなうまく進めなかったですね。時間休のある職場ってなかなかないと思うんですね、だから取るとすると半休いただいて——でもそんなにしょっちゅう休みはとれないですので、なかなか難しかったです。

(周囲の人は) 家族には特に言ってないです。ばれているかもしれないですけど。ばれてても別にいいですけど。それで家族に迷惑をかかったら謝る程度でしょうね。若干の影響は出てくるとは思います。でも、それを言っちゃうと何もできないので、そうすると誰もできなくなっちゃうわけですから。誰もできないのはちょっとまずい。やはり必ず言う人がいないといけません。

私も、こっちに来たのが去年なので、こちらに来てまだ1年しかたってなくて状況もつかめてないんですけど。転勤で。活動のために来てるわけじゃないです、ははは。でも、本当であれば——できれば運営からは降りたかったですけど。まあ、転勤をきっかけにうまく逃げようかな、とちょっとは思ったんですけど。

やっぱり人が多く集まってくれた場合は、今日は多く集まってくれました

ねという、その辺くらいですかね、よかったなあというのは。チーム関西の勸進橋の問題とかありますけど——あれは完全に、奪回に成功したんです。あれは地元の人からの要請で、国も何にも動いてくれない、在特会というただの一市民団体を頼ってきている、それに対して皆さんが声上げて。今まで使ってきた公園を——グランドのように使ってきたんですけど、なくなっている。普通の公園に（なった）。それを考えると効果があった。あとは役所に対して物申したという。それでやっぱり、補助金とかそういったものが減ってますよ。補助金とかその辺の——今新たに来る人たちに対しても、ストップがかかるいいきっかけになってると思うんですね。

私の思想としては、右翼とか愛国的なところから入ってるものではないです。若干ですけど、何となくは彼らの意識的なものも伝わって来るので、感情としてはわかるかなと。どちらかといえば、右翼的な感じもちょっとは理解できたんですね。なので、それはそれでいいのかな——ただあの人たちってどっちかっていうと体育会系の上下関係のような、そんな意識が強いじゃないですか。どちらかという、民族意識とか護国とかそういったものよりも、上についていく——と言っていいのかもしれませんが、上の人に従順に従っているだけのような気がするわけです。自分の意志でやってるのか、ちょっと疑問に思ったりします。

（在特会は）完全に縦ってわけじゃないですし、自分の自由意思もありますし。そういう感じで言うと、自分の思っていることも伝え易いのかな。右翼になってしまうと、政治結社としても登録されてますんで、完全に政治団体になってしまいます。そこはちょっとやっぱり、考えが違うなど。多分自分の考えをそこで主張したとしても、全部消されてしまうわけですね。ですので、ちょっと行動は一緒にはできないというのはあります。神社にお参りするのがある（護国）かな、というところとちょっと違うような気がしますし。

（在特会は）そこまで組織だつてやってるのかな、というところとちょっと違うような気がするんですね。どちらかという、個々の自由意思が反映されているような気がするんですね。ですので、社会運動となると確かに社会運動だと思えますけど、本人の自由意思が入ってるのが違います。そこで自分がやりたいこと、主義主張したいことを言えるというのがありますし。会全

体としての意識と思想と、個人としての思想は少し違うと思うんですけど、そこで個人の主張がある程度言っていけるところがあるので、そこは他とちよっと違うのかなという気はします。

(他の右派からの反対論は) 在特会の主義主張というより、行動に対する意見だと思います。過激だとか乱暴だとか。そこだと思います。乱暴だとか反発があるんですね。私も乱暴なところには「うーん」と思いますけどね。人に周知をして集めてやっているのに、反発をもらったら周知も何もないんじゃないのというのが、私は若干ありますけど。過激なことをずっとやってればいいかという、違うと思うんですよ。そうなると、過激なところを見たいプロレスファンと同じなんです。若干スライドさせていって、もうちょっと知識人を、一般の人たちをサラリーマンとかそういうレベルの人たちを取り入れて——共感持てるような形でやっていったほうがいいと思いますね。ただ、来る人たちは関係なく言っていますんで。

## 6. 「在日特権」への関心

(「在日特権」に関心が収斂した理由) まあ、税金が不正に取られていると。いわゆるゴネ得というもので、ゴネたものに対してお金が支払われていく。暴力的にといいますか、脅しみたいところを役所にやっていくわけですから。そこから今までやってきて、支出が何億とありますけど、やっぱりそれはおかしいだろうと。日本の国に行って日本の国のためにやっているわけではなくて、外国のためにやっているわけじゃないですか。日本の税金を使うのはおかしいだろ、自分達で稼いだ金でやるんだったら別に文句はないけども。日本の税金を取るという時点で、理屈としてはおかしいだろう。それをちょっとでもなくさないといけない。

あとはですね、在日朝鮮人については外国籍のまま日本に永久に続けるという、そこはいびつなものだ。どちらかいても、そこは日本としても外国人としても不幸が続くだろう。子孫に当たる人たちも縛られるので、日本にいるなら日本人として暮らすのか——そこも疑問のところもありますけど、彼らは逃げてきた人なんで。そうした人を本当に受け入れていいのかというのはありますし。ただ、どこかが受け入れないといけないので、そこはしよ

うがないのかなっていう気はありますけど。だから、その人たちが日本で悪さをしていると——ちゃんとしたまじめな人がいるのも当然聞いているし——悪さをしているのであれば、止めないといけないわけじゃないですか。です。そこで在日の問題、特権の問題というか、永住という問題ですね。永住というのをとりあえず無くさなきゃいけない、というのは私の在特会の方で活動していくメインの考えですね。

いびつな関係であると、ですのでここを解消するためにはどうやっていくかという、すぐにばさっと切るのは無理だということで、少しずつ勢力を国民の意識とともに変えていく必要があると思います。最悪としては——最悪といういい方はどうかと思うんですけどね——彼らが日本籍を取って日本国民として生きていくというのも、それはそれで私はありだと思いますけども。ただ、在日ということを理由にして、今いろいろな特権を取得できている。彼らはそれで利益を得ているわけですので。それも含めてどうにかして止めていかなきゃと思っています。

(関心を持ったのは) 調べていくうちに、というところですよ。調べていくうちに、特権があって——特権があるというのは特権をなくしていけばいいんじゃないかというのがあるじゃないですか。ただ、その中身が永住ってなって外国籍のまま、それがしかも韓国人、北朝鮮人にのみ適用されていて、他の国の人たちには適用されない。どう見てもこれだけで不公平になるんです。そこだけ見ても引っかけます。調べていくうちに。何で朝鮮人だけ優遇されてるんだ。まあ、そういうのが引かかって調べだしたというのがちょっとありますけど。

歴史問題もそうですけど、きっかけがそこですから一気に情報としては入ってきているわけです。今までほぼゼロだったのが、急に一気に情報が入ってくるわけですね。このネットの情報により。今まで何となくあったもの、気にもしてなかったものですけど、それがこれと結びつくわけですね。「ああ、そういえばそうだったな」というものが結びついていくんです。そうしますと、急に情報が入ってきて情報過多というか、処理できなくなっていくのはありますけど、そこで精査していったとなるんですけど。まあ、世界史とかそういったものは興味なかったというのがありますけども、元々外国とかあ

まりそんな興味が無いというか、ありますね。そのきっかけをもとに、いろいろ調べていった。

(強く関心を持つのは) やっぱ、裏で悪いことしてるからです。自民党もそこはあると思いますけど、嫌なところですね。それって自民党を変えればすぐ変わるものです。(「在日特権」は) お金に換算するとそれ(少額)ですけど。ただ、在日特権についてはなくそうと思ってもすぐなくなるんですよ。だからここが、負の連鎖といいますか、そこがありますので、その子ども達も、ずっとそれを引きずっていかないといけない、その不幸の連鎖をどこかで止める必要があると思うんです。と思うのが、(活動の) 一番の動機ですけど。

## 7. 抵抗勢力として

(続いてきた理由) やはり私としては、核になる抵抗勢力だと、長い間続ける必要があると思ってるんですよ。ですので、ある意味在特会がなくなってもそれに代わるものがあればいいと思うんですよ。在特会も名前がこれだけ知れ渡ったので、そこからつぶすのはちょっともったいない。私も、どちらかという「お手伝いしている」という意識なんですね。お手伝いして、活動を続けていくことによって、少しでもそういった問題が解消してくれるといいと思ってます。

思考自体が理系なので、政治に関してはそれほど興味はなかったですけども、やはり生活を——哲学的なものになるかもしれない、文系の考えになると思うんですけど——政治を良くするためには国民が意思表示する必要があります。そこから入ってきているものなんです。元々政治に興味があるかという、ないんです。やはり自分の生活を支えるものは政治になるわけじゃないですか。ですから、やらなきゃいけない、国民の意思をちゃんと伝える必要がある。そこからですね。

この一票投じたからといって——それは理系の考え方ですけど——必ずしも何できるかっていうと、請願書出したところではねられたら終わりなんです。だからあまり興味がなかったんです。(在特会は) 影響を及ぼさないかもしれないという感じはあったのですが、ただし在特会がその時点である程

度抵抗勢力になっているというのを、はっきりと感じ取れたんですね。ですので、これは会として存在することによって、意味があるのだと。今日日月中に在日問題がすぐなくならないとしても、この会があることによって、いわゆる抵抗勢力になるんですよ。なので、今まで役所に対して自由奔放なやりたいことをやってきた人たちがですね、役人も在特会があるからという免罪符的なものができるわけです。在特会が言うてくるからダメですよといったら、向こうも引き下がる条件として成り立つ。逆にこちらとしても、役所に対しておかしいことはばしっと言ったら、やってみると思うんですけどね。ちょっとずつではありますけど。

思想という関係ではないんですね、自分は。自分の考えが正しいか間違っているかというのは、今の時点では多分わからないですね。ただ、自分の考えと合ったらこっち。そう考えたら、主張している人と私の考えが合っていると、「合ってるね、そうだそうだ」って。「行動する保守」の人たちと考えが合っている部分が多い。ただ、違うと思うところも結構あったりするわけですね。で、在特会はなくしちゃいけないというのが、根本的な——ここがあるのでこそ抵抗勢力になるんだ、唯一抵抗できるのがここしかない、と。

そこが自分としては守らないといけないと思うんです。国を守るということちょっと大げさなんですけど、そういうのがないと——中国とか韓国にしてみれば日本をほしいわけじゃないですか、どうにかして。日本をどうにかして自分の方にうまく引き込みたいと思ってるんで、そういう工作とかいろいろやってくるわけですけど、そのままではいけないと。私の意見としては、アメリカの言いなりになってる日本というのも、あまりよくないと思います。やはり日本という国があって成り立ってるんですから、日本は自分の意思で、自分の足で立たなければいけないと思ってます。アメリカにもやりたいようにやらせてる、というのは良くないと思ってます。

本当はやることはいっぱいあるんですけども。それでもやらなければならない。世間の批判も結構ありますけども、それでもなくしちゃいけないという思いが強いのでやっています。このままずっとこれが続いていくのか、個人的には疑問に思っています。一般の市民の意識のレベルが、ちょっとずつ変わっていると思います。去年の夏のフジテレビのデモとかそういった問題

もありますし。それから一般の人の意識が変わってきているのかなど。昔は、2ちゃん(ねる)とかあったんですけど、そこで朝鮮人に対する反対の声って以前はなかったと思うんです。大っぴらに反対するケースは。今は普通に反対する人が出てきてますし。今の若い人は基本的にインターネットする人たちなので、今の若い人たちが情報を得ているので、その人たちがどう情報を得るかで今後かかっているなという気がしますね。

## 8. 外国人参政権について

(存在を知ったのは)外国人参政権に反対する市民の会とか、東京でやってたんですね。その方がやり始めてからです。でも、その以前から地方の方でもある程度ささやかれていたんですが、そういう情報が流れてきたんですね。それはちょっとうまくないね、という話をするくらいですね。(在特会に接触する前から)ある程度は知ってましたね。

外国人参政権(が問題)となるのは、外国人は外国人じゃないですか。自分の国に帰れるわけですよ。ある意味、他の方が日本に来て、日本にいいように政治を変えられる。これはちょっとある意味恐ろしいことだと思うんですね。簡単に言ってしまうえばスパイを堂々とできる感じになってしまうんですね。それはちょっとうまくないな。ですので私の考えとしては、基本的に反対ですね。外国人が自分の主義主張をしたいのであれば、自分の国に言えばいいだけの話なんです。それを他国に言うのはちょっとおかしい。ですので、参政権を与えるというのは、ちょっといかがなものか。

参政権ではなくてもものが言いたいのであれば、意見を役所に出すなり、そういういったところで市民の意見を聞く窓口が必ずありますのでそこに行って、精査するかどうかは役所のほうです。ですので、そのところの仕組みとしてはあるわけなんで、政治に対してものを言うというのはちょっとおかしいと。生活を変えるのであれば、役所のほうに意見を言ってくれ、と。

(参政権に対して)あまりそこまで関心はないですね。できればそれに対しては、でもまあ似たような感じですかね。そこまでは関心は高くはないですけども低くもない。通しちゃいけないとはいけないとも思いますけど、通ったからといってすぐさま影響力があるかということ、そんな人数いないわけで

すから。そこまで影響力はないと思うんですね。一番その辺を考えると、民団とかそういったものから支援を受けている議員さんですね、民主党、自民党両方ともいらっしゃると思うのですが、そういう人をうまく排除していかないといけない。

## 9. 結語に代えて

Q氏は、特に保守的な家庭に育ったわけではないが、自民党一辺倒だったという意味で保守的な部類に属する。とはいえ、瀬戸弘幸の動画を偶然見るまでは、排外的な意識を持っていたわけでもなく、「東アジア問題」が在特会への参入経路になっていることが多い他のメンバーとは異なっている。「反日諸国」に対する言及が多い他のメンバーとは異なり、彼の関心はあくまで「国内問題」としての「在日特権」にある。

また、彼自身は会の中では穏健派の部類に入るといってよい。「下品」な「ヘイト・スピーチ」として強く嫌悪される在特会の状況を理解し、過激路線の追求よりはソフト路線により支持を広げたほうがよいという立場をとっている。だが、Q氏自身が関心を持つようになったきっかけは、過激な創価学会批判の動画であり、そうでなければQ氏は自ら述べるように「普通の生活」を送っていただろう。その意味で、穏健路線をとった在特会はネットで耳目を引くことが困難になるから、過激路線の放棄は難しいと思われる。

## 文献

- 樋口直人, 2012a, 「在特会の論理(1)~(7)」『徳島大学社会科学研究所』25号.  
———, 2012b, 「在特会の論理(8)~(9)」『徳島大学地域科学研究』1号.  
———, 2012c, 「『行動する保守』の論理(1)~(3)」『徳島大学地域科学研究』1号.  
———, 2012d, 「在特会の論理(10)」『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』8号.  
———, 2012e, 「行動する保守の論理(4)」『茨城大学地域総合研究所年報』45号.



在特会の論理(17)

(付記) 科学研究費補助金によるプロジェクトの一部として本稿のもととなる調査はなされており、稲葉奈々子、申琪榮、成元哲、高木竜輔、原田峻、松谷満の各氏との共同研究によっている。記して感謝したい。